

《担当者名》歯科クリニック

教授 / 齋藤 隆史 教授 / 伊藤 修一 講師 / 泉川 昌宣 講師 / 松田 康裕
 助教 / 永井 康彦 助教 / 油井 知雄 助手 / 猪熊 孝憲 助手 / 谷口 未季 助手 / 矢嶋 拓
 大学病院
 教授 / 川上 智史 講師 / 森 真理 助教 / 尾立 達治 助教 / 小西ゆみ子

【概要】

う蝕及びその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能及び態度を修得する。

【学修目標】

- 形成部位に応じて適切なう蝕除去用のバーを選択する。
- 適切なハンドピース操作を行う。
- コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成を行う。
- コンポジットレジンの充填・研磨を適切に行う。
- 歯髄保護に配慮する。
- 局所麻酔により無痛的な操作を行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	総合 臨床実習説明・外來說明 器具・器材の点検	臨床実習の進め方や諸注意、外来の使用方法などについての全般的な説明をうける。その後、これから使用する器具・器材の整備、整頓をし、同時にこれらの名称、用途、使用法を再確認する。	齋藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(シミュレーション実習) 1. 級コンポジットレジン修復 2. 級コンポジットレジン修復 3. 歯科用レーザーを用いたう蝕除去実習 4. 診療姿勢・切削圧実習 5. MO Box式インレー修復	シミュレーション実習により、より天然歯に近い切削感及び、実際の臨床に即した窩洞形成法、裏層法、レジン修復法及びエアータービンによる切削法、パキュウムによる排水、ミラーによる排除等の手技を習得する。 シミュレーション実習を通して、 級コンポジットレジン修復用の窩洞形成法を習得すると共に光重合型コンポジットレジンの適応。用法についても学ぶ。 歯科用レーザー及びう蝕付き人工歯を用いて、レーザーのメカニズム及びう蝕除去法に関する技能を習得する。 シミュレーターを用いて、正しい診療姿勢・切削圧について習得すると共に、ミラーテクニックの基礎についても学ぶ。 級メタルインレー修復を行い、形成法、印象、模型製作、Waxup、埋没、鑄造、試適、合着等の一連の過程を修得する。	齋藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(口腔内検査)	実習生が実際に患者となり、検査を行い検査法について学ぶ。	齋藤 隆史 伊藤 修一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(相互実習) CR修復	最低1ケース以上のものは、6割以上を自分で 行い、プロトコールを作製した場合。	斎藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(診療介助・診療見学)	診療見学、介助、一部診療を行う。	斎藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(診療参加型臨床実習) (自験)	配当された患者の検査、治療計画の立案、治療、 予後の観察までの一連の流れを習得する。必要に応じ て、スキルラボを使用して予習・復習を行う。	斎藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
	(臨床ゼミ・症例検討会)	配当された患者の診療に関する症例報告や、模擬 症例に対する討論を実施し、臨床推論能力を高める。	斎藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕 永井 康彦 油井 知雄 猪熊 孝憲 谷口 未季 矢嶋 拓 川上 智史 森 真理

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			尾立 達治 小西 ゆみ子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出题し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

【参考書】

「保存修復学臨床基礎実習の手引き」う蝕制御治療学分野

「保存修復学」千田彰 宮崎真至 林美加子 向井義晴 斎藤隆史 編集 医歯薬出版

「保存修復学21」田上順次 奈良陽一郎 山本一世 斎藤隆史 編集 永末書店

「保存修復クリニカルガイド」千田 彰、寺下 正道、田上 順次、奈良 陽一郎、宮崎 真至、片山 直 編集 医歯薬出版

「保存修復臨床ヒント集」寺中 敏夫・井上 正義・寺下 正道 編集 クインテッセンス出版

【学修の準備】

診療（自験）・介助・見学を行う症例について、その内容をインストラクターとディスカッションを行い、その症例に関する内容を予習しておく。また、事前にスキルラボを利用し、実技の予習を行っておく。（1症例15分）

診療（自験）・介助・見学後は、症例内容についてプロトコル・リンクノートを作成したうえ、インストラクターとディスカッションを行う準備をしておく。また、自験を行った症例については、症例検討会を行う準備をしておく。（1症例15分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を、臨床実習を通じて修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を、臨床実習を通じて身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を、臨床実習を通じて身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を臨床実習を通じて実践する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を臨床実習を通じて身につける（社会的貢献）。

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、伊藤 修一（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、永井 康彦（歯科医師）、油井 知雄（歯科医師）、猪熊 孝憲（歯科医師）、諏訪 諒子（歯科医師）、川上 智史（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西ゆみ子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師として保存修復分野の臨床経験5年以上の教員が指導医となり、3-5年の教員が上級医として実習を担当している。